

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等(製品)の名称	塗る亜鉛テクスチャー 粉末
会社名	ローバル株式会社
住所	大阪府枚方市野村元町 1-1
担当部門	技術サービス部
電話番号	072-894-7590
FAX 番号	072-894-7593
e-mail アドレス	jp-info@roval-group.com
緊急連絡先	072-894-7191
作成・改定・確認	2025年3月17日
製品の種類	水系有機系ジンクリッチペイント(高濃度亜鉛末塗料)用亜鉛粉末
用途と使用上の制限	内外装用 水性デザイン金属塗料

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性	分類対象外				
健康有害性	急性毒性				
	経口	経皮	吸入(気体)	吸入(蒸気)	吸入(粉塵又はミスト)
	区分に該当しない	分類できない	区分に該当しない	分類できない	区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	呼吸器感作性又は皮膚感作性		
			固体/液体	気体	皮膚感作性
	区分に該当しない	区分 2B	分類できない	分類できない	分類できない
	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	授乳に対する又は授乳を介した影響	
	分類できない	分類できない	区分 2	分類できない	
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1	区分 2	区分 3	
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1	区分 2		
誤えん有害性	水性環境有害性 短期(急性)	水性環境有害性 長期(慢性)	オゾン層への有害性		
分類できない	区分 1	区分 1	分類できない		

【GHSラベル要素】

「絵表示」



警告

「注意喚起語」

「危険有害性情報」

- ・強い眼刺激
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・臓器の障害のおそれ
- ・長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

「注意書き」

【安全対策】●使用前に製品カタログ、施工仕様書などを入手すること。●全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。●粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。●取扱後は手をよく洗うこと。●この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。●環境への放出を避けること。●保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急処置】●眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。●ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。●眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当を受けること。●漏出物を

回収すること。

【保管(貯蔵)】 ●施錠して保管すること。

【廃棄】 ●内容物／容器を法令に従って適切に廃棄すること。

3. 組成および成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

物質名	成分(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	PRTR 法
亜鉛	93 ~ 98	7440-66-6	—	該当せず
酸化亜鉛	1 ~ 5	1314-13-2	(1)-561	該当せず

4. 応急措置

【吸入した場合】 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【皮膚に付着した場合】 水と石鹼で洗うこと。

【眼に入った場合】 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

【飲み込んだ場合】 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【予想される急性症及び遅発性症状】

吸入：金属味、金属ヒューム熱。症状は遅れて現れることがある。

皮膚：皮膚の乾燥

経口摂取：腹痛、吐き気、嘔吐。

<酸化亜鉛>

吸入：咽頭痛、頭痛、発熱／体温上昇、吐き気、嘔吐、脱力感、悪寒、筋肉痛

経口摂取：腹痛、下痢、吐き気、嘔吐

【最も重要な兆候及び症状】

【応急処置をする者の保護】 救助者は状況に応じて適切な保護具を着用する。

【医師に対する特別注意事項】 金属ヒューム熱の症状は、数時間経過するまで現れない。

5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火剤、乾燥砂等
使ってはならない消火剤	水と反応して水素ガスを発生するため、注水は避ける事。
特有の危険有害性	火災によって亜鉛ヒュームを発生するおそれがある。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、吸気式呼吸保護具等の各種保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

【人体に対する注意事項】

作業者は適切な保護具(8.暴露防止及び保護措置の項参照)を着用し、眼、皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。

【環境に対する注意事項】 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

【回収、中和】

漏出拡大を防止し適切に回収する。漏出物は粉じんを立てないように注意しながら箒・スコップ、掃除機等で集め密閉可能な容器に回収後、関係法令に従い廃棄処分する。土壌への浸透、河川への流出が生じた場合は、汚染状態を確認し、適切に処理する。

【封じ込め及び浄化の方法・機材】 土壌汚染対策法による規制は無いが土壌の堀削除去が望ましい。

【二次災害の防止策】 排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

<技術的対策>

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、作業者は適切な保護具を着用し、吸入や直接の接触を避ける。

<局所排気・全体換気>局所排気・全体換気を行う。

<安全取扱い注意事項>

破袋等容器を破損させないように注意する。接触、吸引又は飲み込まないこと。眼との接触を避けること。粉

じん、ヒュームを吸入しないこと。空気中の湿気と反応して酸化物を作るため、湿気に注意すること。取扱後はよく手を洗うこと。屋外又は換気のよい所でのみ使用すること。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

<接触回避> 「10.安定性及び反応性：混触危険物質」との接触を回避する。

【保管】

<技術的対策>品質面から屋根付き倉庫に保管、貯蔵し、高温多湿状態は避ける。

<接触危険物質> 「10.安定性及び反応性：混触危険物質」

<保管条件>直射日光を避け。水濡れさせないこと。

<容器包装材料>密閉式の破損しないものに入れること。

8. ばく露防止及び保護措置

物質名	管理濃度	許容濃度	
		日本産衛学会	ACGIH
亜鉛	—	—	—
酸化亜鉛	—	—	2 mg /m ³ (TWA)

【設備対策】

作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。空気中の粉じん濃度を暴露限界以下に保つよう換気を行う。

【保護具】

<呼吸器の保護具>適切な呼吸器保護具を着用すること。

<目の保護具>適切な眼の保護具を着用すること。

<皮膚及び身体の保護具>適切な手袋、保護衣等を着用すること。

<その他>記載事項無し。

9. 物理的及び化学的性状

物理的状態	
色	灰色、青灰色、銀白色
性状	粉末（個体）
臭い	無臭
融点・凝固点	419.53℃：Lide (88th, 2008), HSDB (2006)
沸点又は初留点及び沸点範囲	907℃：Lide (88th, 2008), HSDB (2006), ホンメル(1996), 混色危険Hb (第2版, 1997), ICSC(1994), ICSC(J)(1994)
引火点	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル=1）	データなし
自然発火点	460℃：ICSC(1994), ICSC(J)(1994)
分解温度	データなし
pH	データなし
燃焼性（固体、気体）	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
粘度（粘度率）	データなし
溶解度	水：不溶：HSDB (2006), 混触危険Hb (第2版, 1997) 酸、アルカリ：可溶：HSDB (2006)
n-オクタノール/水分配係数	logP=-0.47：SRC (Access on 7. 2008)
蒸気圧	1mmHg (487℃)：Sax (11th., 2004), ホンメル(1996)
密度及び/又は相対密度	7.142：混触危険Hb (第2版, 1997)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

- 安定性： 空気中の湿気と反応して酸化物を生成する。
 水と反応して水素ガスを発生する。
 常温で安定。酸、水酸化アルカリに可溶。大量に酸、水酸化アルカリと反応させると発熱し水素を発生する。
- 危険有害反応可能性： 自然発火性は無いが、水と反応して水素ガスを発生し、発熱反応のため、条件によっては発火する事もある。
- 避けるべき条件： 混触危険物質との接触。水分、火気、混合、衝撃。
- 混触危険物質： ハロゲン化炭化水素、水酸化アルカリ類、アミン、硫黄、強酸化剤、強塩基。
- 危険有害性のある分解生成物： 非常に高い温度で加熱すると有毒なヒュームを生成することがある。

11. 有害性情報

【急性毒性】

物質名	経口	区分	経皮	区分
亜鉛	> 2.0 g / kg	区分に該当しない	分類できない	
酸化亜鉛	> 5.0 g / kg	区分に該当しない	> 5.0 g / kg	区分に該当しない

【急性毒性】

物質名	吸入(気体)	区分	吸入(蒸気)	区分	吸入(粉じん,ミスト)	区分
亜鉛	区分に該当しない		分類できない		> 5.4 mg / L	区分に該当しない
酸化亜鉛	区分に該当しない		区分に該当しない		> 5.7 mg / L	区分に該当しない

物質名	皮膚腐食・刺激	眼損傷・刺激	呼吸器感作性	皮膚感作性
亜鉛	区分に該当しない	区分 2B	分類できない	区分に該当しない
酸化亜鉛	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	区分に該当しない

物質名	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性
亜鉛	分類できない	分類できない	分類できない
酸化亜鉛	分類できない	分類できない	区分 2

物質名	特定標的臓器 (単回)	特定標的臓器 (反復)	誤えん有害性
亜鉛	分類できない	分類できない	分類できない
酸化亜鉛	区分 1 (呼吸器、全身毒性)	分類できない	分類できない

12. 環境影響情報

- 一般注意事項： 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱に注意する。
 特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処する。

物質名	水生環境有害性 短期 (急性)	水生環境有害性 長期 (慢性)	オゾン層への有害性
亜鉛	区分 1	区分 1	分類できない
酸化亜鉛	区分 1	区分 1	分類できない

- 生態毒性： データなし
 残留性・分解性： 急速分解性がない (金属化合物) 《亜鉛》
 生態蓄積性： データなし
 土壌中の移動性： データなし

13. 廃棄上の注意

【残余廃棄物、汚染容器及び包装】

廃棄する場合、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託、処理すること。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を告知して処理委託をすること。容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去すること。

